

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	(有)ニフコ		
事業所名	グループホーム田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井603		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172600609-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景に囲まれた畑と庭のある伝統的な日本家屋という高齢者には馴染みのある住み慣れた住環境です。長期間ご利用頂く中での身体能力の低下は否めませんが、かかりつけのクリニックの往診や看護職員と介護職の連携を密にし、健康や医療面でのサポートを充実させ、ご利用者、ご利用者家族に安心してお過ごしいただけるように努めています。利用者とスタッフが自然体で一日一日をぐく当たり前に楽しく過ごしていけるような場でありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員がいきいきとやりがいを持って働けるために対話を大切に取り組んでいる。事業所内の改修など職員から出された要望は試行錯誤しながら出来る限り対応している。毎月利用者の自宅に請求書等を届けている。直接会うことで言い難いことも言えるような関係となるように努めている。看取りについて協力医の協力が得られ、様態の変化に伴い家族に事業所での事例を説明することで、家族の意向を確認しながら支援している。敷地内に畑や果実の木があり、旬の野菜を献立に入れたり、柚子や菖蒲などをお風呂入れたりして生活を楽しんでいる。古民家の空間を最大限に活かせるように工夫して、家庭的な生活を支援している事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場において、これからの高齢者の在宅での暮らし、在宅医療介護の在り方などについて共に考え、語り合う場としている。	管理者は、日常の会話の中で理念について説明している。職員は、利用者にとって馴染みのある空間で、残った力を活かし、生活を楽しむことが出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり、庭仕事、畑仕事の助言、手伝いなど地域の人々と交流している、	地域の草刈りや溝掃除などに参加している。交流を通じて野菜の苗や米を分けてもらえるようになった。年末に事業所でそばを打ち、利用者と交流できるように民生委員や地域の人々を招待した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の校外学習の場を提供し、介護や人権、家族、人生について語り合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地域の介護相談や防災に関して地域の協力を得られるよう取り組んでいる	利用者の状況や消防署の立入検査の結果など報告している。介護保険法の改正や事業所の利用料金の変更など必要時に開催しているが、定期的に開催されていない。	地域密着型の事業所として定期的に会議を開催し、サービス向上にむけた話し合いが行われることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は認定審査会などに参加し、役場や揖斐広域の担当者と日常的に接触。入居者やスタッフの状況について報告相談し、様々な助言を得て事業を進めている	管理者は認定審査会に参加したり、担当者に利用者の状況を報告したりしている。認定調査の訪問時に、事業所内を案内し、状況を伝え、意見を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	椅子をテーブルを近づけるなど、身体拘束の懸念が考えられる場合はその場で指摘し、スタッフと問題を共有して話し合いを通じて理解を深め人権意識を高めている。	管理者は、拘束しないためにどのような工夫ができるのか職員と話し合い取り組んでいる。職員は計画的に研修を行い虐待や身体拘束について学んでいる。日頃から職員の気になる言動があった時は、その場で説明し、拘束とならないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について、難しい法律論でなく具体的に「どのような行為か？」など日常的な平易な話し合いを通じて理解を深め人権侵害や虐待の防止に努めている		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている。かみ砕いて職員に伝えるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている。毎月末の請求書を個別訪問して要望、苦情を聞き取っている。ターミナル期について相談されることが増えたので丁寧に繰り返し説明している	管理者は、毎月自宅を訪問して請求書等を手渡している。家族に会う機会を作り、話すことで信頼関係が築くように心掛けている。家族より入院した時や退院の時の心配と意見があり話し合い理解が得られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の細かい業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ、仕事にやりがい感を得られるように努めている。(長期の雇用を通じて相互の信頼感がある)	管理者は、日頃より職員との対話を心掛け意見や提案を聞いている。職員からトイレ前のカーテンの設置や安全対策などの要望を話し合って取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上具合を積極的に評価し、合理的で働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部を助成している。今期よりそれぞれに応じた講習会に参加するよう指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村の勉強会、地域の福祉事業者や地域のケアマネ研修会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。得た情報をスタッフに伝えスキルアップを目指している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、嗜好を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や親類の間に適度に介入し、本人と家族を一体的に支えることを目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和するため、デイユースやショートステイの利用など個別に臨機応変に柔軟に対応、できるだけ抵抗や不安感の少ないサービス導入を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指しているが、現実的にはADLと危険性を考えると難しくなっている。引き続き 利用者の生活力を見出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意志を尊重しつつ、家族と利用者を共に支えることを目指している、ともすれば断絶しがちな関係がよりよい方向に動き始めるきっかけ作りができればと考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら、短期間家族宅で暮らすなどすることを提案し家族との関係の維持に努めている	本人や家族より馴染みの人や場所を聞いている。家族の協力で床屋や墓参りなどに出掛けている。利用者の表情がさえない時は、会話によく出てくる家族に面会の依頼や電話を取り次いでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り支援している。		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショート利用者で他施設に入居された方を訪問した。離れたことでお互い気付くこともあり、自らの在り方についてスタッフと前向きに話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所でありたいと考え、その実現に努めている	思い出の話をしている時や入浴している時などに思いを聞いている。利用者が発した言葉より思いを把握し、申し送りノートを利用したり、話し合ったりして職員間で共有し叶えることが出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好を把握し、できるだけ暮らしやすい環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら 介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月毎に職員が行い、6ヶ月毎に計画を見直している。家族には書面で意見や要望を聞いている。全利用者の計画を同じ月に見直しているため、要介護認定更新時などの現状に即した見直しが出来ていない。	利用者一人ひとりの要介護認定の更新時や状態の変化に合わせた介護計画の見直しを望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の出張による整髪や園芸ボランティア、散歩の同伴など軽度の身体レクをお手伝い頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関で受診している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握。日常的に見守って頂いている	かかりつけ医の受診は、家族の同行が基本である。事業所での様子や状態を書面で家族に渡している。受診の結果は看護職員が確認している。家族の都合が悪い時は、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連絡を取りながら利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	揖斐厚生病院の入退院に際して、必要な生活情報を提供し、また適時、医師、看護師、MSWと面談し相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾患が重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して出来る事と、家族側が必要な事柄についてそれぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議においてよく終末期の話題を取り上げている	契約時に事業所の方針を伝えている。状態の変化に伴い、家族に事業所ができる事を具体的に説明して思いや希望を確認している。家族が宿泊したり、自宅での看取りを支援したり家族の希望を大切にしたり取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は救急救命講習を受講済み、日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し、スタッフのスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難方法について、日常的に考え話し合い。定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している	ハザードマップを活用して話し合ったり事業所で独自の防災セットを準備したりしている。年2回の避難訓練を実施しているが、地域住民の参加や夜間想定避難訓練を行っていない。	夜間を想定した避難訓練の実施や地域との協力体制が得られるよう工夫が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した対応をするよう努めている	自分がされて嫌な事は憤り、強い口調や馴れ馴れしさにより利用者の尊厳を傷つけないよう心掛けている。職員の意見からトイレ前にカーテンを取り付けプライバシーや羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い 自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理できる利用者はいないが、おやつ、の切り分け、食器の下膳手伝い、台拭きなどして頂いている	利用者と畑で収穫した野菜を使用して、好みの献立を聞きながら季節が感じられるように工夫している。利用者と一緒に干し柿や干し大根を作っている。小食の利用者には、数回に分けて食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂取量を管理、必要に応じて個別に水分のインアウトや分割食など行い栄養と水分の摂取を管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	利用者が掴まりやすいようにトイレの掴まり棒を工夫して、立つことや寝たきりの人には座ることを大切にしている。容易にオムツを使用するのではなくトイレに行くことで自立支援に繋がるように話し合っており取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取。適度な運動。座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全な入浴が自立的に出来ると見込まれる場合は 本人の希望で入浴して頂くようにしている。	一人ひとりの好みに合わせて時間や湯温を調節している。一人での入浴も支援している。池田温泉の入浴剤や事業所の畑で取れた柚子や菖蒲などを使用して気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している。降圧剤など取扱に注意を要するものはことあるごとに何度も説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味嗜好を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩、喫茶店訪問、気分転換の為、近場の観光地へのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている	散歩や野菜、果実を取りに屋外へ出ている。家族に外出や外食を依頼して協力が得られている。職員と花見などドライブに行くこともある。家族より100歳のお祝いを自宅で行いたいと希望があり、開催できるように支援した。	

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが、チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている。外出時に金銭を使用するサポートをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ、生活上の安全を考慮した改装を行い、また利用者の状況に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	木造住宅の良さを活かし障子や使い慣れた家具などを置き、利用者にとって懐かしく、落ち着ける空間となるように取り組んでいる。リビングのテーブルに電気こたつと毛布を取り付けるなど職員のアイデアで居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重した介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できる限り 本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	入口は昔ながらのガラス戸や障子を使用し室内は畳が敷かれている。仏壇や鏡台、タンスなど馴染みの物を持ち込んでいる。孫の作った作品や家族からの手紙を貼り落ち着ける居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している		